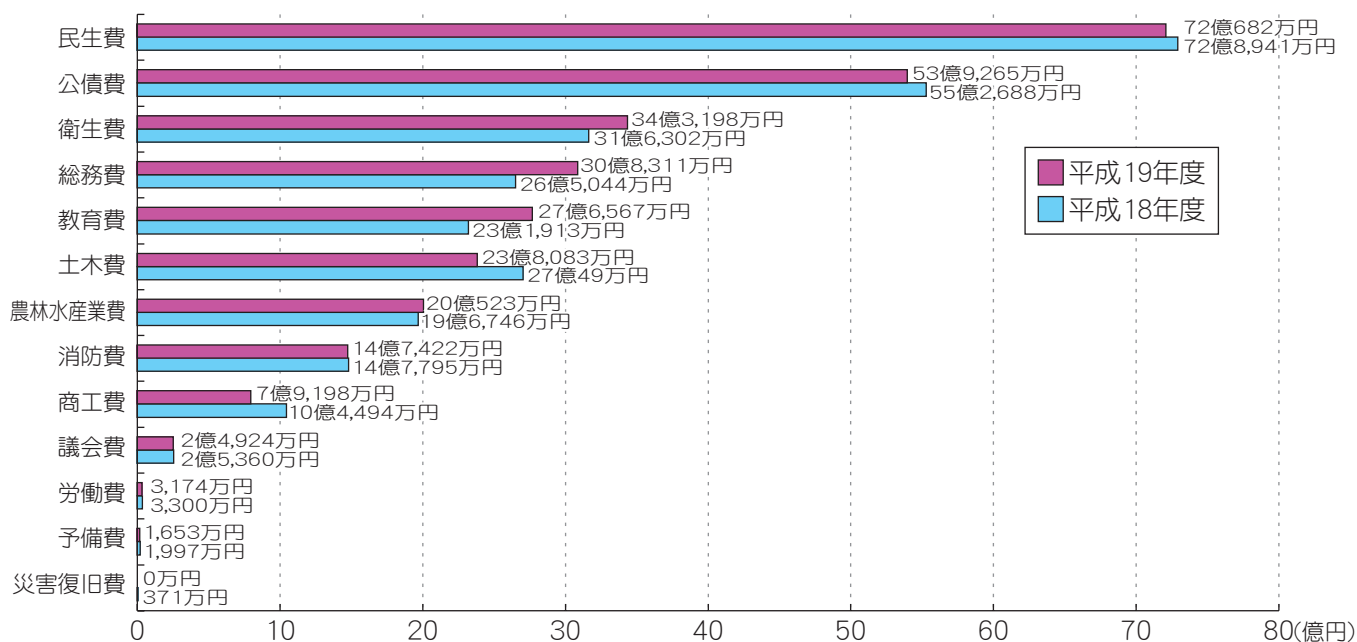


## 平成19年度の支出の内訳

平成18年度と平成19年度の一般会計予算をその目的ごとにグラフにしました。平成19年度の予算でみると民生費（老人福祉、児童福祉など）が72億682万円と最も多く、次いで公債費（借金の返済金など）の53億9,265万円、衛生費（医療対策、環境保全など）の34億3,198万円、総務費（地域振興、選挙費など）の30億8,311万円、教育費（義務教育、社会教育など）の27億6,567万円という順になっています。

18年度と比較すると、教育費で4億4,654万円増えています。これは、老朽化の著しい網野中学校の管理棟を改築するための5億4,980万円を計上しているためです。また、総務費においても4億3,267万円増えています。これは、合併前から言われていたブロードバンドネットワーク整備事業（光ケーブルによる情報通信の基盤整備）に3億2,302万円を計上しているためです。

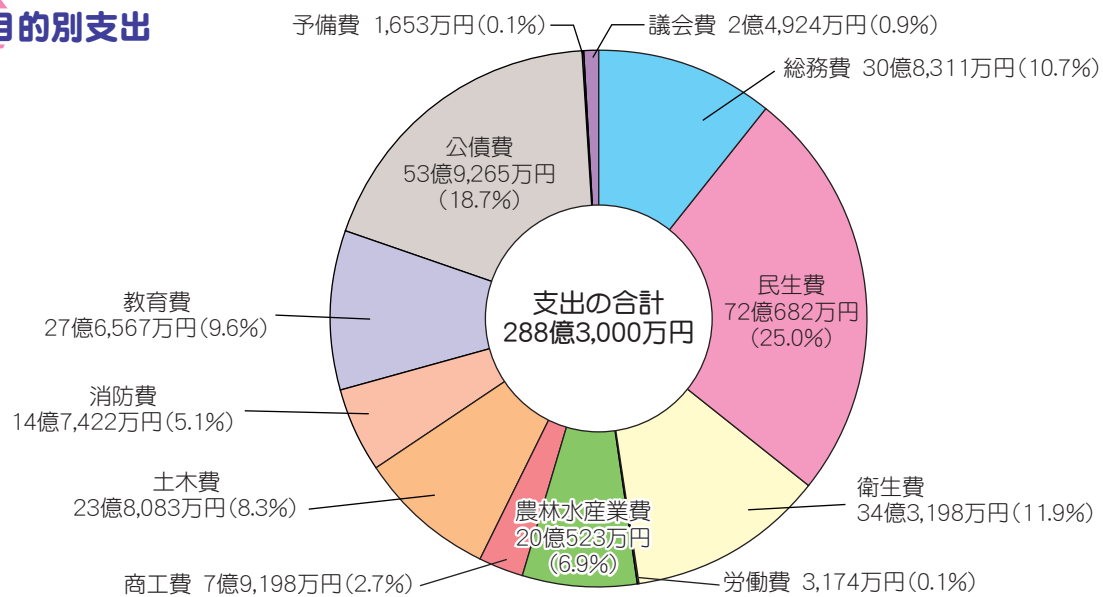
### 支出比較（目的別）



商工費（商工業などに関する経費）、消防費（防災、消防業務などに関する経費）などその目的によって区分した予算を「目的別予算」と言います。

その目的別にみた平成19年度予算の配分は次のグラフのようになっています。

### 目的別支出



次に平成19年度の一般会計予算をその性質ごとにグラフにしました。

人件費（職員の給与や審議会の委員報酬など）、扶助費（生活保護費や児童手当など）のように経済的な見方で区分した予算を「性質別予算」と言い、商工費、消防費など、その目的によって区分した予算（目的別予算）とともによく利用されます。

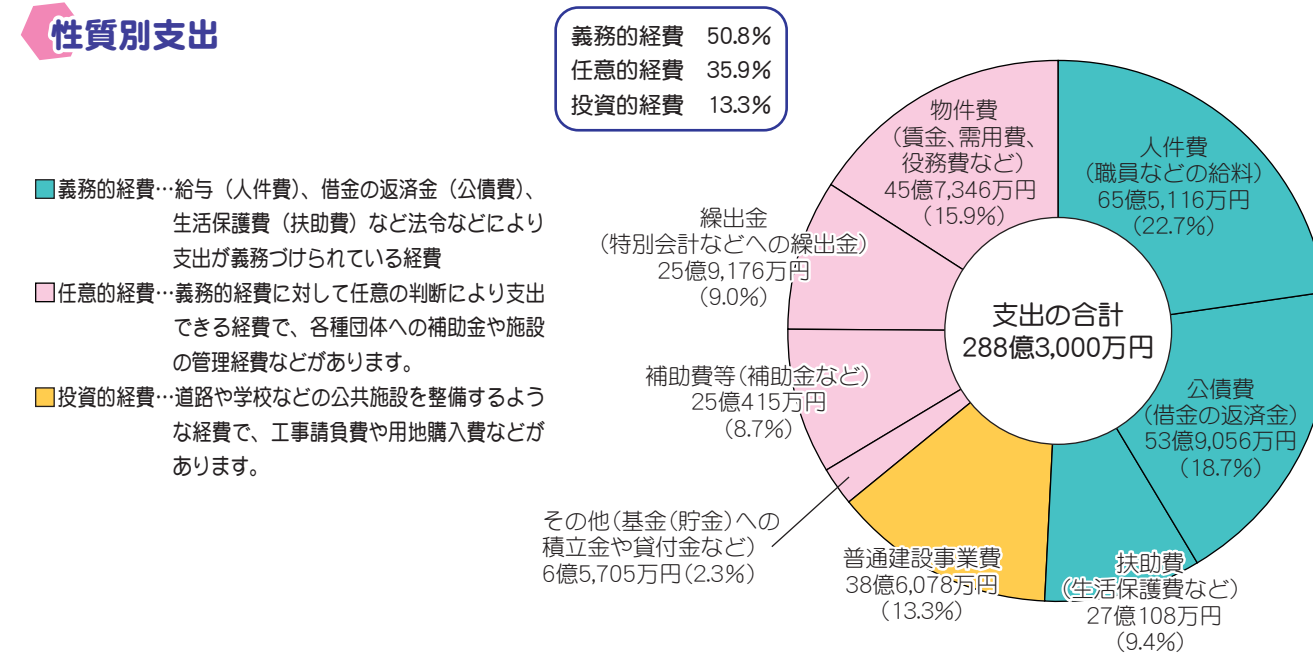
平成19年度の予算でみると人件費が65億5,116万円と最も多く、次いで公債費（借金の返済金）の53億9,056万円、物件費（賃金、需用費、委託料など）の45億7,346万円、普通建設事業費（道路や学校、公共施設整備など）の38億6,078万円という順になっています。

なお、普通建設事業費については、厳しい財政状況の中でも公共事業の実施に配慮し、平成18年度の予算に比べ6億4,481万円を増額して予算計上しています。

義務的経費（人件費、公債費や扶助費）は、必ず支払わないといけない経費なので、この義務的経費の割合が高くなると、市民のみなさんへの助成金や道路の改良工事などを縮小しなくてははいけないことになります。

また、収入（特に税金など）が減るとより多くの任意的経費や投資的経費の削減が必要となります。このことは、市が独自に事業を実施したくてもできない、いわゆる「財政の硬直化」が進んでいることとなります。

### 性質別支出



## 京丹後市の市債（借金）と基金（貯金）の状況

### 一般会計では借金が京丹後市発足以来4年連続で減少

平成19年度末の一般会計における市の借金の現在高は、433億7,214万円になる見込みで、平成15年度末が467億9,453万円でしたので、合併時から34億2,239万円減少したことになり、京丹後市となってから4年連続で減少させていることとなります。また、平成19年度末の一般会計で市民のみなさん1人あたりの借金の額を換算すると約68万円になる見込みですが、この借金の中には、返済金の一部が地方交付税（国からの交付金）で返ってくるものもあるため実質的にはもう少し少なくなります。

一方、平成19年度末の一般会計における市の貯金の残高は、24億6,969万円になる見込みで、市民のみなさん1人あたり約4万円になります。

1人あたりの借金68万円から貯金4万円を差し引くと、64万円借金が多いことがわかります。

市では、こうした借金と貯金のバランスや経済の動向を考え、将来にわたってのさまざまな財政分析をしながら効率的な財政運営に努めています。

なお、平成19年度末における京丹後市の全会計の借金は800億8,969万円、貯金は32億293万円となる見込みです。